

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成28年6月30日(2016.6.30)

【公開番号】特開2016-77353(P2016-77353A)

【公開日】平成28年5月16日(2016.5.16)

【年通号数】公開・登録公報2016-029

【出願番号】特願2014-209205(P2014-209205)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成28年5月13日(2016.5.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技を行う遊技機であって、  
 異常を検出する異常検出手段と、  
 演出音を出力可能な演出音出力部と、  
動作を検出する検出手段と、  
 前記演出音出力部から出力する演出音の音量を設定する音量設定手段と、  
 前記音量設定手段により設定される音量を前記検出手段による検出に基づいて段階的に  
 変更可能な音量変更手段と、  
 前記検出手段による検出がなされたときに、該検出後に前記音量設定手段により設定さ  
 れる音量に対応する確認音を前記演出音出力部から出力するための処理を実行する確認音  
 出力手段と、  
 前記異常検出手段によって異常が検出された場合に、異常が発生した旨を報知する報知  
 音を前記演出音出力部から出力する報知音出力手段と、  
 設定条件が成立したことにもとづいて、消費される電力を減少させる節電状態に移行し  
 、解除条件が成立したことにもとづいて、前記節電状態を解除する節電状態制御手段とを  
 備え、  
 前記音量設定手段は、所定範囲内で音量を設定可能であり、  
 前記確認音出力手段は、前記音量設定手段により設定される音量が所定範囲の限界にあ  
 る場合において、当該音量を所定範囲外へ変更する動作が検出されたときには所定範囲の  
 限界の音量に対応した処理を実行し、  
 前記節電状態制御手段は、前記解除条件が成立した場合、前記設定条件が成立してから  
 前記節電状態に移行するまでの期間より短い期間にて前記節電状態を解除し、  
 前記報知音出力手段は、前記節電状態に移行されているときであっても、前記異常検出  
 手段によって異常が検出された場合に前記報知音を出力可能である  
 ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 7 】

(手段1) 本発明による遊技機は、遊技を行う遊技機(例えば、パチンコ遊技機1)であって、異常を検出する異常検出手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100が、閉鎖状態であるにもかかわらず大入賞口に遊技球が入賞したことを検出する部分)と、演出音を出力可能な演出音出力部(例えば、スピーカ8L, 8R)と、動作を検出する検出手段(例えば、スティックコントローラ30への操作を検出する傾倒方向センサユニット32)と、演出音出力部から出力する演出音の音量を設定する音量設定手段(例えば、演出制御用CPU120が、図28に示す音量等設定処理のS716において音量変更操作処理を実行する部分)と、音量設定手段により設定される音量を検出手段による検出に基づいて段階的に変更可能な音量変更手段(例えば、演出制御用CPU120が、図29に示す音量変更操作処理のS808~S809において操作内容に応じて強調表示された音量段階に対応した音量に変更する部分)と、検出手段による検出がなされたときに、該検出後に音量設定手段により設定される音量に対応する確認音を演出音出力部から出力するための処理を実行する確認音出力手段(例えば、演出制御用CPU120が、図29に示す音量変更操作処理のS810において確認音を出力する部分)と、異常検出手段によって異常が検出された場合に、異常が発生した旨を報知する報知音を演出音出力部から出力する報知音出力手段(例えば、演出制御用CPU120が、エラーを検出したことを指定するエラー検出指定コマンドを受信した場合に、S2204, S2304においてエラー報知演出を実行する部分)と、設定条件(例えば、客待ちデモ演出が開始されてから30秒が経過すること)が成立したことにともづいて、消費される電力を減少させる節電状態に移行し、解除条件(例えば、遊技者の動作を検出すること、始動入賞が発生すること)が成立したことにともづいて、節電状態を解除する節電状態制御手段(例えば、演出制御用CPU120が、S2215において節電状態を設定し、S2318において節電状態を解除する部分)とを備え、音量設定手段は、所定範囲内で音量を設定可能であり(例えば、図37に示す各音量段階(「2」~「14」)の範囲内で音量を設定可能な部分)、確認音出力手段は、音量設定手段により設定される音量が所定範囲の限界にある場合において、当該音量を所定範囲外へ変更する動作が検出されたときには所定範囲の限界の音量に対応した処理を実行し(例えば、演出制御用CPU120が、図29に示す音量変更操作処理のS804において遊技者が操作可能な音量段階の範囲内の最大音量に対応した確認音を出力する部分、またはS807において遊技者が操作可能な音量段階の範囲内の最小音量に対応した確認音を出力する部分)、節電状態制御手段は、解除条件が成立した場合、設定条件が成立してから節電状態に移行するまでの期間(例えば、T1)より短い期間(例えば、T2)にて節電状態を解除し(例えば、演出制御用CPU120が、S2209~S2215において、客待ちデモ演出が開始されてから30秒が経過することが成立した時点からT1経過後に節電状態を設定し、S2312~S2318において、節電状態において遊技者の動作を検出することまたは始動入賞が発生することが成立した時点からT2(T1>T2)経過後に節電状態を解除する部分)、報知音出力手段は、節電状態に移行されているときであっても、異常検出手段によって異常が検出された場合に報知音を出力可能である(例えば、演出制御用CPU120が、S2209~S2215において、客待ちデモ演出が開始されてから30秒が経過することが成立した時点からT1経過後に節電状態を設定し、S2301のY, S2204において、節電状態にてエラーを検出したことを指定するエラー検出指定コマンドを受信した場合に、エラー報知演出を実行する部分)ことを特徴としている。

【手続補正3】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 1

【補正方法】 変更

## 【補正の内容】

## 【 0 0 1 1 】

(手段3) 手段1において、検出手段(例えば、スティックコントローラ30への操作を検出する傾倒方向センサユニット32)にて1の動作が検出されてから他の動作が検出されるまでの検出間隔が、1の動作に対応する確認音を出力する時間よりも長いときに、音量変更手段(例えば、演出制御用CPU120が、図28に示す音量等設定処理のS716において音量変更操作処理を実行する部分)は、当該他の動作による音量に変更し、確認音出力手段(例えば、演出制御用CPU120が、図30に示す変形例における音量変更操作処理のS835において確認音を出力する部分)は、他の動作により設定された音量に応じた音量の確認音を演出音出力部から出力するための処理を実行し(例えば、演出制御用CPU120が、図30に示す変形例における音量変更操作処理のS828においてセットされた確認音を出力する部分)、検出手段にて1の動作が検出されてから他の動作が検出されるまでの検出間隔が、1の動作に対応する確認音を出力する時間よりも短いときに、音量変更手段は、当該他の動作による音量に変更し、確認音出力手段は、他の動作により設定された音量に応じた音量の確認音を演出音出力部から出力するための処理を実行しない(例えば、演出制御用CPU120が、図30に示す変形例における音量変更操作処理のS832において確認音出力中タイマがタイマアップするまで確認音を出力しない部分)ことを特徴としている。

## 【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【 0 0 1 3 】

(手段4) 手段3において、他の動作が複数行われ、確認音出力手段(例えば、演出制御用CPU120が、図30に示す変形例における音量変更操作処理のS835において確認音を出力する部分)が確認音を演出音出力部から出力するための処理を実行しないことが複数あるときに、確認音出力手段は、1の動作に対応する確認音を出力するための処理を実行した後に、最新の動作により設定された音量に応じた音量の確認音を演出音出力部から出力するための処理を実行する(例えば、演出制御用CPU120が、図30に示す変形例における音量変更操作処理のS829において記憶済みの次回出力用の確認音の音量を新たに設定した確認音の音量に更新し、当該更新した確認音を出力する部分)ことを特徴としている。